

事例6 生徒一人ひとりが、主題を深め、よりよい表現方法を見出すことをねらった事例

- 学年 第3学年
- 主な領域 彫刻に表す活動
- 事例のポイント
 - ①心や感情から主題を生み出し、省略、単純、強調化させながら、テーマに合った形や色彩を追求していくことを通して、思考力を深めていくことができるようにする。
 - ②石粉粘土を主な材料に用いて、塑像的なつくり方や彫刻的なつくり方など自分に合った制作方法を考え、色彩や素材を工夫するなど、試行錯誤しながら作品制作を進めることができるようにする。

ICTを活用した主な学習場面

- ・発想や構想の段階において、主題を生み出す場面
- ・作品制作する段階において、よりよい表現方法を見出す場面
- ・自分の考えや意見をまとめ、共有する場面

ICT活用の利点

- ①共有機能を活用し、自分の考えを発信しやすくなるとともに、他者の考えも受信しやすくなるため、生徒同士で、自分の考えやアイデアを広げ、深めることができる。
- ②カメラ機能と描画機能を活用し、試作（試し塗りや描き直し等）を繰り返しやすくなり、アイデアを構築するために試行錯誤しやすくなる。
- ③カメラ機能とプレゼンテーション機能や共有機能を合わせて活用し、制作過程の記録と振り返りをわかりやすくまとめ、取り組みの蓄積を鑑賞活動でも活用することができる。

1 題材名 「想いのカタチ ～抽象彫刻への挑戦～」

【第3学年】A表現(1)ア(7)、(2)ア(7)、B鑑賞(1)ア(7)、〔共通事項〕(1)ア、イ

2 題材について

- (1) 生徒の実態 (略)
- (2) 本題材を指導するに当たって (略)

3 目標及び評価規準 (※〔共通事項〕(1)ア、イはア_____、イ_____で示す。)

(1) 題材の目標

- ・形や色彩、材料など性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、表現された感情や躍動感などを作品全体のイメージで捉えることを理解する。
- ・石粉粘土やアクリル絵の具の特性を生かし、意図に応じて、自分の表現方法を追求して創造的に表す。 (知識及び技能)
- ・自分の経験や想像したことから得た感情や思いなどから、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。
- ・感情や動きを形や色彩で表した作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて、美意識を高め、見方や感じ方を深める。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・美術の創造活動の喜びを味わい、自分の経験や想像したことから得た感情や思いなど、考えたことを基に表現の学習活動に取り組もうとする。
- ・美術の造形活動の喜びを味わい、造形的なよさ美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と造形的な工夫などについて考えるなどの見方感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知形や色彩、材料など性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、表現された感情や躍動感などを、作品全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>技石粉粘土やアクリル絵の具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</p>	<p>発自分の経験や、想像したことから得た感情や思いなどから、主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>鑑感情や動きを形や色彩で表した作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</p>	<p>態表美術の創造活動の喜びを味わい、自分の経験や想像したことから得た感情や思いなどから、考えたことを基に表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑美術の造形活動の喜びを味わい、造形的なよさ美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と造形的な工夫などについて考えるなどの見方感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

※それぞれの評価規準は「内容のまとめりごとの評価規準(例)」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。(下線部は変更箇所)

4 指導と評価の計画（全11時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

時間	学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等					備考
		知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
		知	技	発	鑑		
1	1 発想・着想（3時間） ・抽象彫刻作品を鑑賞し、作品の主題や形や色彩、表現方法の特徴などについて考える。 ・抽象彫刻作品について知る。 ・これからの学習のねらいや制作手順などについて理解する。	◎ 対話 記述			○	◎ 観察 記述	「知識・技能（知識）」は、形や色彩、材料など性質や、それらが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を基に、表現された感情や躍動感などを、作品全体のイメージや作風などで捉えられることを理解し、今後の見通しを持っていくか、という視点で評価する。
2	・抽象作品作りの取りかかりとして、感情を形に表現する練習をする。 ・紙粘土を使い、提示された主題（怒・哀・喜）の順に1つずつ形を想像して表現し、相互鑑賞する活動を繰り返す。	○	○	◎	◎	◎ 観察 作品 記述	「思考・判断・表現（発想や構想）」は、練習で作った作品から、生徒が提示された主題から、想像を広げ、単純化や省略、強調などをさせて作品構想を練ることを理解しているかを把握して指導に生かす。
3	・自分の経験や思い出などから想像したことを基に、主題設定を行う。 ・主題を基に、表現したい気持ちや感情を考え、気持ちの強さなどから形や色彩などを想像し、アイデアを練る。 ・図にまとめたり、紙粘土で試作したりする。	○	◎ 観察 対話 7行7 7行7	◎	◎	◎ 観察 作品 記述	「思考・判断・表現（発想や構想）」は、自分の経験や、想像したことから得た感情や思い出などから、主題を生み出しているか、また、主題から単純化や省略、強調などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているか、という視点で評価する。
4	2 制作（7時間） ・石粉粘土の特徴に扱い方について理解する。 ・アイデアスケッチや試作した作品を基に、石粉粘土を使い、塑像していく。 自分の表現意図に応じて、絵の具を練りこみ、着色しながら進める。	○	○	◎	◎	◎ 観察 対話 作品 記述	「知識・技能（技能）」は、より美しく塑像するためにはどうすればいいか、乾燥後の彫刻作業をどうすればいいかなど、石粉粘土の特性を理解して制作しているかを把握し、指導に生かす。
5	・ICT端末を活用し、毎時間、制作記録と振り返りをまとめ提出する。	◎ 対話 作品 記述	◎ 対話 作品 記述			◎ 観察 対話 作品 記述	「知識・技能（技能）」は、石粉粘土の特性を生かし、意図に応じてよりよく主題を表すための表現方法を追求して創造的に表現しているか、という視点で評価する。

事例のポイント①

事例のポイント①

ICT活用の利点②

事例のポイント①②

6 【本時】	<ul style="list-style-type: none"> ICT端末を活用し、制作で悩んだり、アドバイスが欲しいときは、質問を書き込み、見たい人が返答するなど、随時生徒同士でやり取りできるようにする。 主題に合わせて、塑像が終わった生徒から彫刻刀などで彫り込んだり、やすりで磨いたりして、形を加工し、整える。 	○		○		◎ 観察 対話 作品 記述	「思考・判断・表現(発想や構想)」は、自分の経験や想像から生み出した主題を、省略、強調させつつ、主題をより強めた作品にするための工夫方法を考え、心豊かに構想を練っているか、把握して指導に生かす。
7	<ul style="list-style-type: none"> やすりで磨いたりして、形を加工し、整える。 アクリル絵の具やメタル箔など、自分の作品に合った色や質感の表現方法を考えなら、制作を進める。 	○	○	○			「知識・技能(知識)」は、作品全体のイメージを捉え直し、主題に合った形や色彩をどう表現すればいいか理解しているかを把握して指導に生かす。
8		◎ 作品 記述	◎ 作品 記述	○			「知識・技能(知識)」は、作品から形や色彩、材料などがもたらす効果や、造形的な特徴を理解し、作品全体のイメージを表現できているか、という視点で評価する。
9	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて粘土以外の素材も組み合わせながら、組み立てや接着を行い、作品を仕上げる。 作品が完成した人から、作品カードに、最終的な主題とその理由、作品の特徴や表現の意図、工夫点などを記入する。 		◎ 作品 記述	○			「知識・技能(技能)」は、やすりや彫刻刀、アクリル絵の具やメタル箔など、用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を追求し、創造的に表現できたか、という視点で評価する。
10				◎ 作品 作品 カード			「思考・判断・表現(発想や構想)」は、完成作品と、作品カードの記述と照らし合わせながら、生徒独自の主題を生み出し、他者に主題を伝えるために合った表現の工夫や構想を練ることができたか、という視点で評価する。
11	<p>3鑑賞会(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品と作品カードを展示し、クラス内で鑑賞会をする。 仲間の作品を鑑賞し、ICT端末を使って意見交換する。 作品の主題や、主題と作品の形や色彩との関連、用いた材料や表現方法の工夫などに注目し、作品の造形的なよさや美しさを感じとり、味わう。 	○			◎ 対話 作品 記述	◎ 観察 作品 鑑賞カード 記述	「思考・判断・表現(鑑賞)」は、鑑賞カードの記述などから、作者の主題と作品の形や色の関連などに注目し、感情や動きを形や色彩で表した作品の造形的なよさや美しさを感じ取れているか、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、見方や感じ方を深めているかどうか、という視点で評価する。

事例のポイント①②

事例のポイント②

5 本時の学習（本時6 / 11時）

(1) 目標

- ・ 作品全体のイメージを捉え直し、主題に合った形や色などの表現方法や、感情や動きを強め、躍動感をだすための方法を理解する。 〈知識及び技能〉
- ・ 主題をよりよく表現するために、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考えながら、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 準備

- 教師：ICT端末、石粉粘土、粘土板、粘土ペラ、のし棒、霧吹き、手拭きタオル、針金、ペンチ、彫刻刀、やすり、メタル箔
- 生徒：ICT端末、筆記用具、美術セット(教科書、資料集、クロッキー帳、アクリル絵の具)









(3) 展開

過程時間	学習活動 予想される生徒の 具体的な姿(「」)	指導の工夫 (〔共通事項〕に係る内容 ア、____、イ、_____)	評価と手立て 【観点】：評価規準(評価方法) ◎：十分に満足できる状況 ◆：B評価に達しない生徒への手立て
導入 10分	<p>1 前時の活動を振り返り、制作記録を基に、各自の課題を確認する。</p> <p>提案「作品テーマをよりよく表すための形や制作方法を考えながら制作をすすめよう！」</p> <p>2 本時のねらいを理解し、課題を達成するためには何をすればいいか、見通しをもつ。 「より主題が伝わりやすい見た目に改良していこう」 「どんな形にしたら、もっと動きが出るかな」</p>	<p>○ねらいを達成するために、制作途中の作品とテーマを改めて見直し、<u>テーマが伝わる形になっているか、また動きや躍動感を出すためにはどうしたら良いかを考えながら制作をするように促す。</u></p> <p>○制作が思うように進まない生徒に配慮するために、もし自分で解決できないときは、ICT端末に質問を入れて意見を聞くこと、出た質問に対してアドバイスできる人は積極的にコメントしてあげることを説明する。</p>	<p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(6)</p> <p>編 P100 指導計画の作成の留意事項(2)</p>
展開 35分	<p>3 作品と、石粉粘土、粘土ペラ、彫刻刀等、各自必要な道具を用意して制作を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の成形途中の生徒は、石粉粘土で塑像する。 ・ 作品が乾燥済みの生徒は、彫刻刀で彫ったり、やすりで磨く。 <p>事例のポイント①②</p> <p>ICT活用の利点①</p> <p>4 随時、ICT端末を活用し生徒同士の考えを参考にアイデアを広げる。</p>	<p>○量感のしっかりした立体作品にするために、正面だけでなく、多方面から見た時の作品の見え方を意識させる。</p> <p>○作品をよりよくするために、形を再考する際、単純化省略、強調についても改めて触れ、作品の一部を省略したり、生かす部分の長さや大きさなどの変化を強調させたりすることで、メリハリのある作品に仕上がることを、改めて伝える。</p>	<p>【知】 作品全体のイメージを捉え直し、主題に合った形や色彩などの表現方法や、感情や動きを強め、躍動感をだすための方法を理解している。(観察、作品)</p> <p>◎ 自分の表現したい主題に合った、制作方法で形や色の工夫を加え、テーマ性を強めたり、躍動感を強調したりするための形の工夫の仕方を理解している。</p> <p>◆ テーマを確認し、なぜその形になっているのか理由を尋ねたり、作品のよさを確認したりしながら一緒に考え、助言を行う。また、ICT端末の質問箱使い、仲間に助言を求めても良いことを伝える。</p>

<p>・制作中、仲間に意見を聞きたいことがある人はICT端末で質問をする。</p> <p>・質問に対して、アドバイスや意見がある人は、自分の意見をコメントする。</p>	<p>やり取りの例</p> <p>質問① 「重圧を感じる形になってるかな？」</p> <p>コメントA 「そびえたつ壁って感じがしていいと思う。」</p> <p>コメントB 「壁をもっと波みたいにかーブさせて、覆いかぶさる感じにするのはどう？」(図が送られてくる。)</p> <p>質問② 「入学初日に友達ができ嬉しさとか、わくわく感を、手を握り合った形から抽象化させてるんだけど、手すぎるよね？(具象的だよね?)」</p> <p>コメントC 「指の形をもっと崩して、羽みたいにしちゃえば？」</p> <p>コメントD 「指くっつけて一塊にして、指の線でウェーブ描いて動きだすとか？」</p> <p>5 使用した材料や道具の後片付けをする。</p> <p>・作業台上の道具箱の整理整頓、作業台の掃除、道具の返却を行う。</p>	<p style="text-align: center;">編 P100 指導計画の作成の留意事項(2)(6)(8)</p> <p>○テーマが伝わる形になっているか、また動きを出すためにはどうしたらいいか確認するために、クラスの仲間から意見が欲しい人は質問を投稿するように呼びかける。</p> <p>○生徒間でのやり取りを充実させるために、質問が投稿されたことを、クラス全体に知らせ、コメントできる人はするように促す。</p> <p>○返答が返ってきたことに、生徒本人が気づかない場合は、質問箱を確認するように声をかける。</p>	<p>【思】 主題をよりよく表現するために、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考えながら、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(観察、作品)</p> <p>◎テーマから想像をふくらませたり、具体的なイメージから、創造的な構成を工夫し、効果的に単純化したり、省略したり、大切なところを強調化させたりして心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p>◆テーマからどのように発想を広げてきたのか確認し、さらにどんな風に表現したいと考えているのか尋ね、発想の良さを伝えながら、一緒に考え、助言を行う。また、ICT端末の質問箱使い、仲間に助言を求めても良いことを伝える。</p> <p>【態表】 美術の創造活動の喜びを味わい、自分の経験や想像したから得た感情や思いなどから、考えたことを基に表現の学習活動を取り組もうとしている。(観察、対話、作品)</p> <p>◎自分の表現したい主題に合わせて表現方法を選択し、試行錯誤を繰り返しながら制作に取り組んでいる。</p> <p>◆直接対話を通じて、表現の良さや取り組み方の良さなどを伝えたり、材料や用具の扱い方を助言し、表現の工夫などについて興味関心を高めるような指導を行う。</p>
<p>整理 5 分</p>	<p>6 本時の活動を振り返る。</p> <p>・制作途中の作品を見直し、今日の学習を通して自分が考えたり、気づいたことを振り返りとして、記録写真とともに、ICT端末に記入する。</p> <p>・次時への見通しをもつ。</p>	<p>○制作記録にまとめるため、作品の記録を撮るように伝える。その際、わかりやすくするために、多方面から写真を撮ったほうが良いことを伝える。</p> <p>○生徒がねらいにせまれたかどうかを実感できるように、今日の学習内容から学んだことや考えたことをまとめ、ICT端末に蓄積させる。</p>	<p style="text-align: center;">編 P100 指導計画の作成の留意事項(8)</p> <p style="text-align: center;">ICT活用の利点③</p>

知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、**技**＝「知識・技能」の技能に関する評価規準、**発**＝「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、**鑑**＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、**態**＝「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を表す。

※【記録に残す評価】は□、【指導に関する評価】は○で示している。

<p>★デザイン図(原案)</p> <p>*制作当初のテーマやデザインした形を記録しよう</p> 	<p>① 制作(成形・形づくり)</p> <p>*テーマに基づき、粘土などの材料を使って試作してみよう</p> 	<p>② 制作(成形・形づくり)</p> <p>*テーマに基づき、粘土などの材料を使って制作をすすめよう</p> 	<p>③ 制作(成形・形づくり)</p> <p>*テーマに基づき、粘土などの材料を使って制作をすすめよう</p> 
<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は空手をしている場面から横の面と正面から見ただけの図形を作った。前回より少しコンパクトにして作った。この作品で火(顔角している場面)をイメージしたいんですけど赤で囲ってある部分にどのようにして火を表現すれば良いですか？</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は前回作ったアイデアスケッチを元に新しい粘土をつかいて形を作ることができました。この粘土ではいつもと違う感じの形であったり質感だったので次回ではこの質感などこの粘土の性質を利用して作っていきたいと思います</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は前回粘土が足りなかったのが今回では真ん中に空洞を開けることで量を増やして大きく作品を作ることができました。形が不安定だったり難しさが目立つのでここを修正し、しっかりと抽象的な作品を作っていきたいと思えます</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は作成をし、この赤で囲んだところをへらの先端をつかいて握ることで陰と立体感を出しました。この作品で炎のイメージもある上でのところをざらざらさせ炎をイメージさせることができました。今回は本体に模様をつけたリトルツルさせたりしていきたいと思えます</p>
<p>④ 制作(彫り・磨き)</p> <p>*テーマに基づき、形作った作品に彫り込みを加えたり、磨いて整えよう</p> 	<p>⑤ 制作(彫り・磨き)</p> <p>*テーマに基づき、形作った作品に彫り込みを加えたり、磨いて整えよう</p> 	<p>⑥ 制作(彩色等)</p> <p>*出来上がった形に、色を塗って仕上げよう</p> 	<p>⑦ 制作(彩色等)</p> <p>*出来上がった形に、色を塗って仕上げよう</p> 
<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は赤で囲んだ部分をヤスリと彫刻刀をつかい、前回よりキレイにしました。次は色を使い炎をイメージした、模様を描いたり彫刻刀やヤスリで反対部分をしっかりとつくっていき、完成に近づいていきたいと思います</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は全部をヤスリや彫刻刀を使い綺麗に仕上げました。次回は色塗りを丁寧にやりより良くしていきます</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は色塗りをやりこの作品では戦いをイメージし、左側は、赤をイメージし、右側は青をイメージして対立をイメージし、次回は作っていきたいです。今回は炎のグラデーションをイメージしつつ色を塗り赤とオレンジを使いに行くほど水を多めにつけてグラデーションをイメージして色を塗ることができました。</p>	<p>*制作記録・質問など</p>

<p>★デザイン図(原案)</p> <p>*制作当初のテーマやデザインした形を記録しよう</p> 	<p>① 制作(成形・形づくり)</p> <p>*テーマに基づき、粘土などの材料を使って試作してみよう</p> 	<p>② 制作(成形・形づくり)</p> <p>*テーマに基づき、粘土などの材料を使って制作をすすめよう</p> 	<p>③ 制作(成形・形づくり)</p> <p>*テーマに基づき、粘土などの材料を使って制作をすすめよう</p> 
<p>*制作記録・質問など</p> <p>テーマを変えてつくりました。抽象化が、どこまで元の形を残していくのかわからなくて、難しかったです。足はなるべく原型を残しておきたいけど、上をどうしたら良いかわからなかったです。全体のバランスを見ながら形を変えていくのが難しかったです。自分なりに考えて工夫しました。次は、もっと思い切って形を変えていくにも挑戦してみたいです。</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>表面にできるしわをなくすのがとても難しかったです。粘土をなめらかにするために、水をたくさんつけて表面を溶かしながら、少しずつ指でならしていききました。力を入れすぎると形が崩れてしまうので、加減に気をつけてながら仕上げることが大変でしたが、きれいに整えられて嬉しかったです。次はもっと早く、ていねいに作業できるようにしたいです。</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は、あしの部分を作りました。前回つくったものの形を整えるところからやりました。その時に、力を入れすぎてしまっで変な形になってしまったので、次回は気をつけたいです。そして、次回はこののどばりやをなくして、この線が入っているところを綺麗にしたいです。</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>テーマが受験のプレッシャーや期待に押しつぶされそうな気持ちなので、それを形にするため、表面をトゲトゲやボコボコにして質感の変化を工夫しました。トゲの角度や粘土の硬さを調整するのが難しかったですが、水をつけて滑らかにしながら形を整えました。</p>
<p>④ 制作(彫り・磨き)</p> <p>*テーマに基づき、形作った作品に彫り込みを加えたり、磨いて整えよう</p> 	<p>⑤ 制作(彫り・磨き)</p> <p>*テーマに基づき、形作った作品に彫り込みを加えたり、磨いて整えよう</p> 	<p>⑥ 制作(彩色等)</p> <p>*出来上がった形に、色を塗って仕上げよう</p> 	<p>⑦ 制作(彩色等)</p> <p>*出来上がった形に、色を塗って仕上げよう</p> 
<p>*制作記録・質問など</p> <p>前回つくったトゲトゲのやつをラップに包んで置いていたら、下のトゲが潰れてしまったので、潰れていた部分を作り直しました。トゲを作る時、他のトゲを潰さないように、トゲがない部分を持ちながら、慎重に作り直しました。潰れた部分を直すのは大変でしたが、粘土の硬さを調整しながら形を整えることで全体のバランスを保てました。次回はやすりを使って表面のボコボコをきれいにし、より完成度の高い作品にしたいと思います。</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>前回つくった形をもとに、全体のバランスを見ながら粘土の厚みや角度を調整しました。特にトゲの部分は折れやすいので、粘土の硬さを確かめながら、少しづつ指で整えるようにしました。また、支える部分が細いところは、太さを少し足して強度を上げました。形がある程度固まってきたので、次回はやすりを使って表面の凹凸をなめらかにし、より完成度の高い仕上げを目指したいです。</p>	<p>*制作記録・質問など</p> <p>今日は前回までに形を整えた部分を、やすりを使って表面をなめらかにしました。特にトゲの部分は形を崩さないように慎重に作業しました。まだボコボコしているところがあるので、次回はそこをやすりで滑らかにして、削った部分を最終的に仕上げ、色も塗って完成させたいです。</p>	<p>*制作記録・質問など</p>